

【教科に関する調査の状況】

【レーダーチャート】

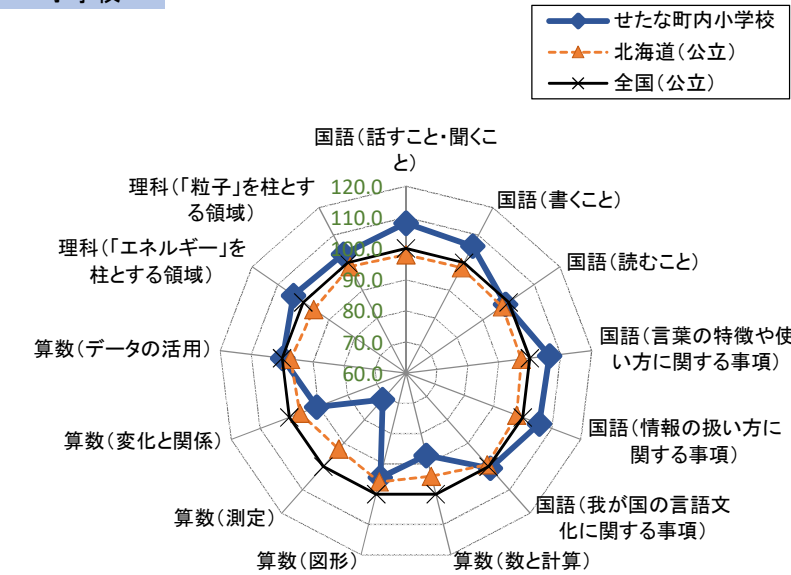
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

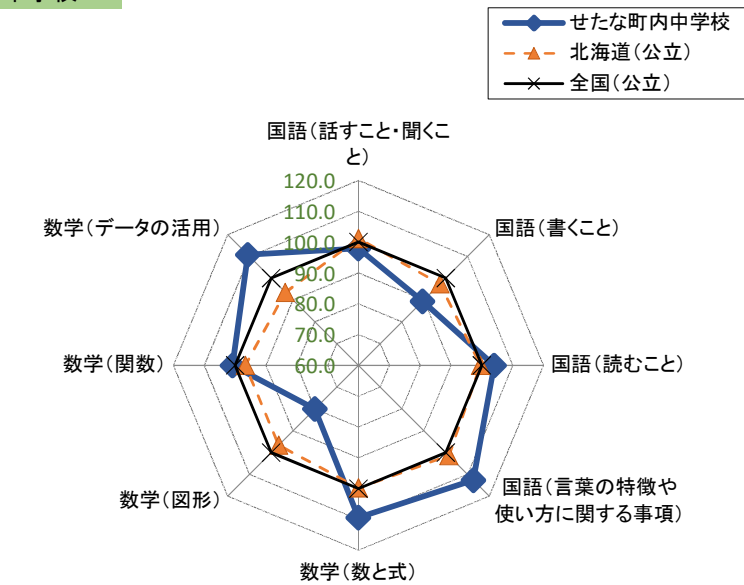
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
せたな町	70.0	51.0	59.0	53.0	48.0	494
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校



中学校

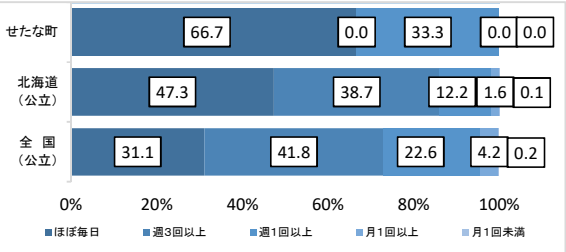


【質問紙調査の状況】

小学校

<学校質問>

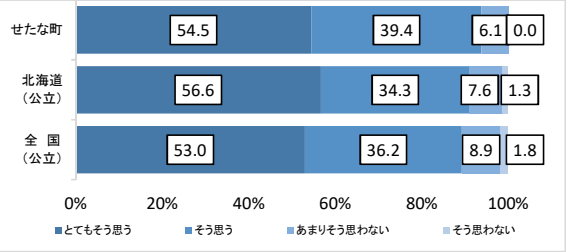
児童が自分で調べる場面では、児童一人一人に配置されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

<児童質問>

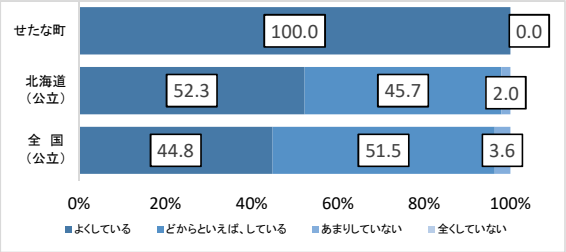
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使用することについて、分からないことがあった時にすぐに調べることができる



小学校

<学校質問>

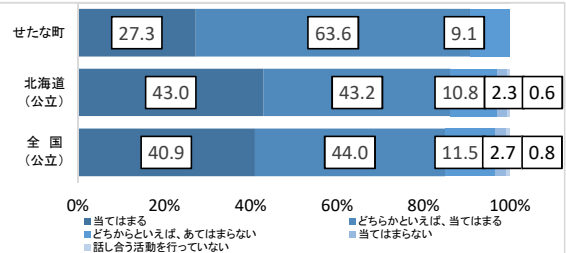
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



小学校

<児童質問>

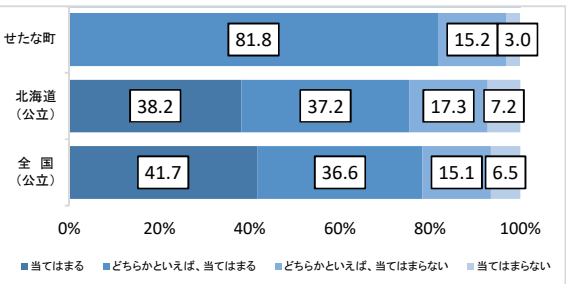
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか



小学校

<児童質問>

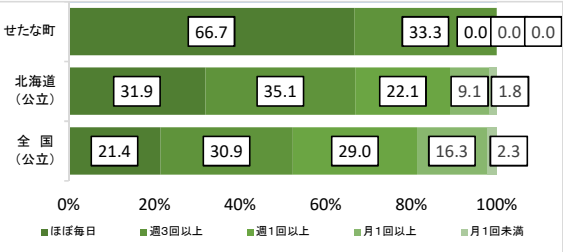
算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校

<学校質問>

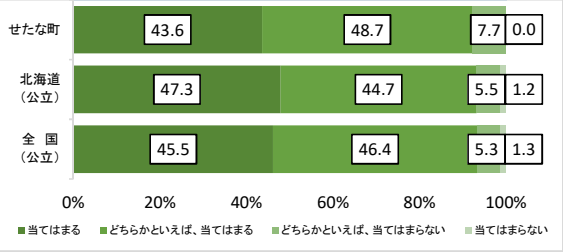
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

<生徒質問>

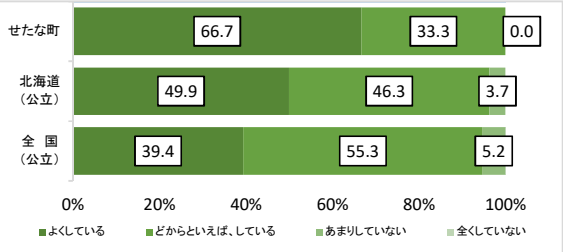
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



中学校

<学校質問>

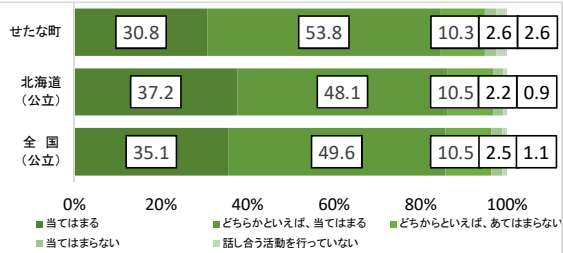
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



中学校

<生徒質問>

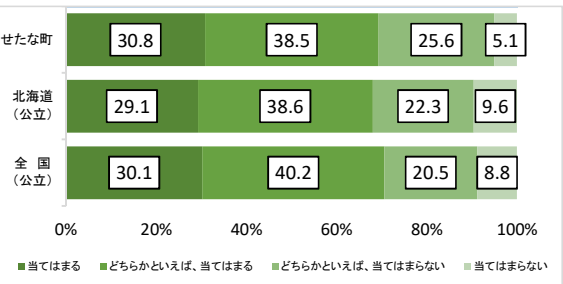
学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか



中学校

<生徒質問>

数学の授業の内容はよく分かりますか



・小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、分からないことがあった時にICT機器を利用してすぐ調べることができる」と肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

・中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

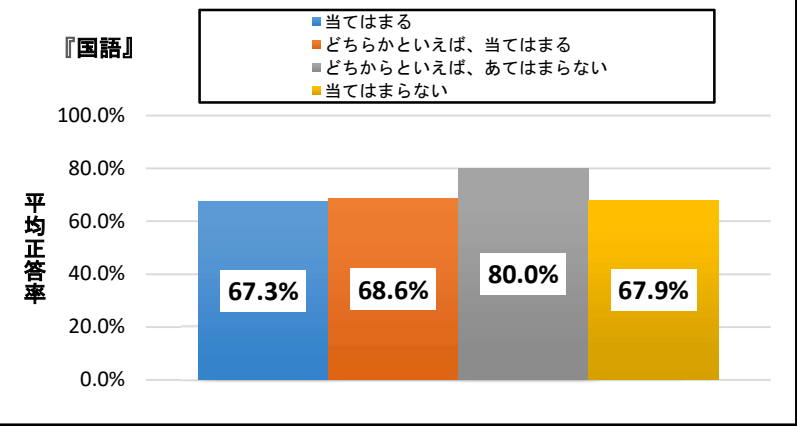
・本町は数年来、国語の正答率が高い傾向にある。
それは、学校質問紙の回答にあるように、言語活動について国語科を要しつつ他教科においても学校全体で意識的に取り組んできた成果と考えられる。
また、児童生徒質問紙の回答結果から、児童生徒の「話し合う活動を通しての自らの考えの深化や新たな考えの気づきが高い傾向にあることがわかるが、そのことも先の言語活動の取り組みとあいまって国語の正答率の一定の維持につながっていると考えられる。

・小学校において、「算数の内容はよく分かる」と回答した児童が全国及び全道を下回っている状況は、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答している児童の割合が下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

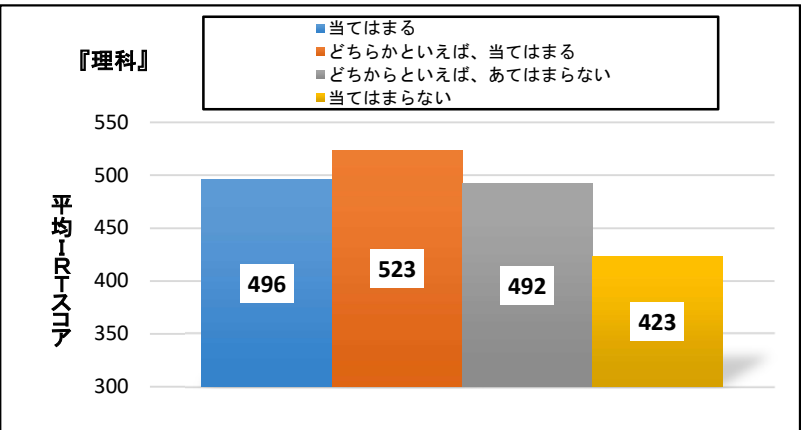
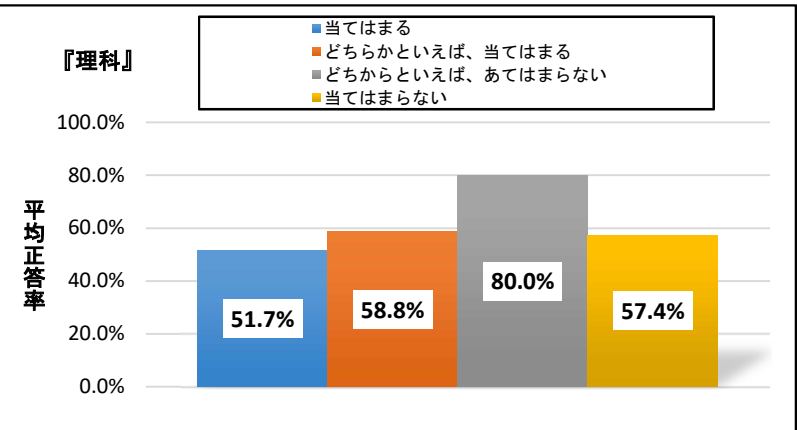
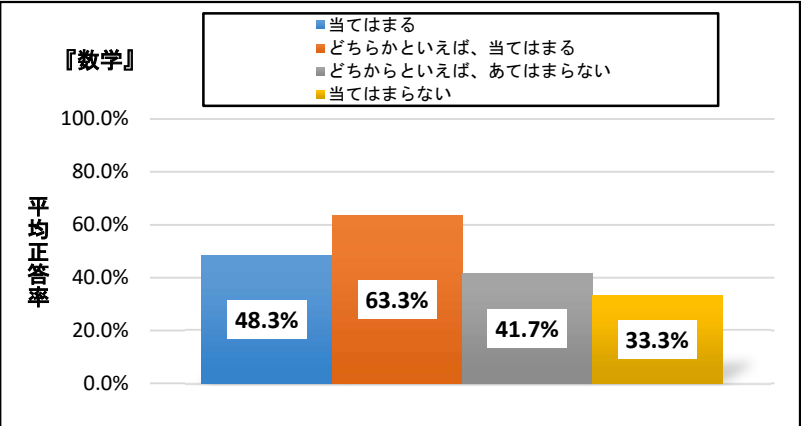
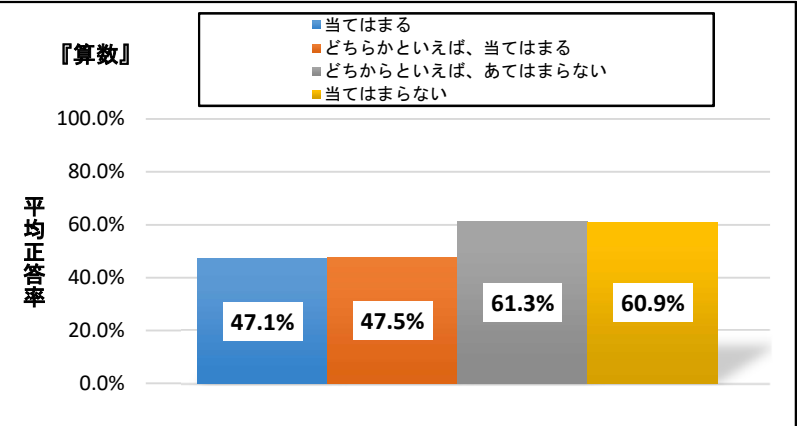
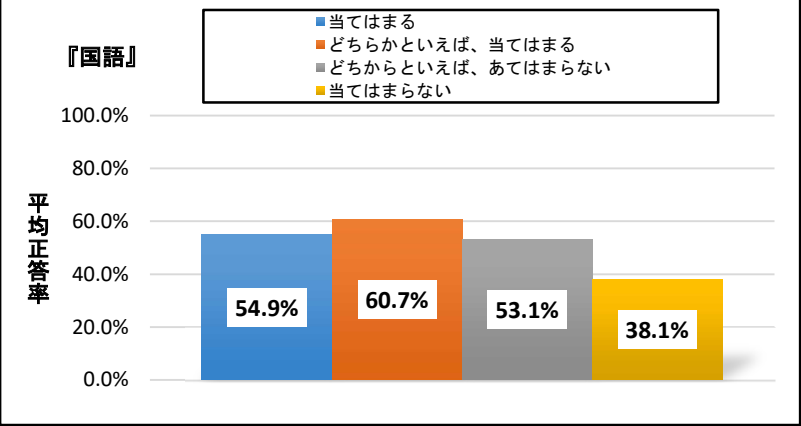
【クロス集計の状況】

質問	将来の夢や目標をもっていますか
----	-----------------

【児童】



【生徒】

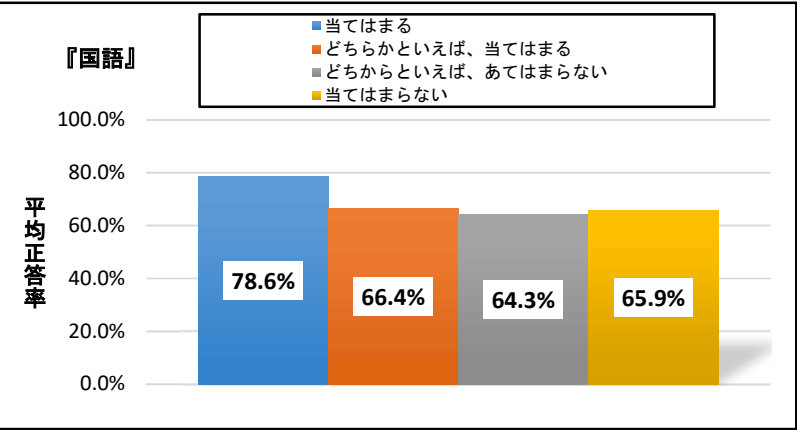


児童質問紙では、将来の夢や目標について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」よりも、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の方が3教科とも平均正答率が高い。これは、正答率の高い児童の方が、自分の将来の選択肢が豊富であり、将来を見据えた目標がまだ定まっていないとらえることができる。

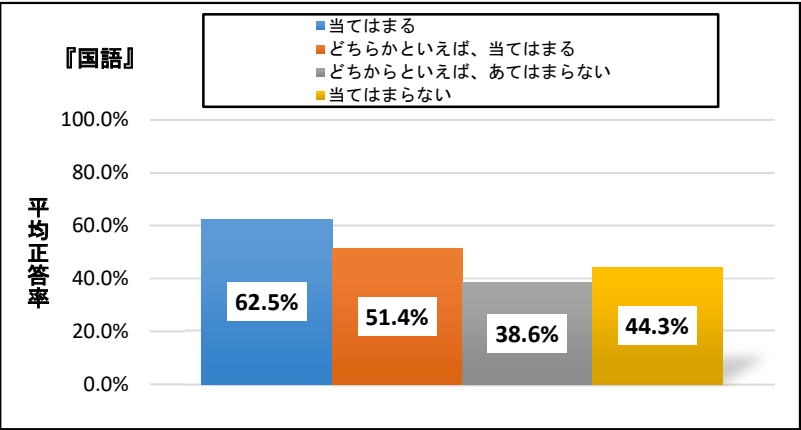
一方生徒質問紙では、同じ設問について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した生徒の方が平均正答率が高い。これは、中学生として自分の将来像が明確になり学習に力が入ってきているためと考えられる。

質問	読書は好きですか
----	----------

【児童】



【生徒】



児童質問紙・生徒質問紙において、「読書は好きですか」に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」児童・生徒の方が、国語の平均正答率が高い結果となっている。読書好きと国語科で求められる資質・能力の相関関係は有意なものと考えられる。

○今後の改善方策

- ①教員の各種研修会参加、町教育研究会研修活動助成による教員の資質向上への支援
- ②ICT支援員配置による学習環境の充実・プログラミング教育の推進
- ③外国語指導助手、特別支援教育支援員等の配置による教育条件の整備
- ④地域産業と連携した教育活動(地域に根ざした教育)の推進
- ⑤学校と家庭が連携した生活習慣改善の取組